

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和6年2月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、2月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564




<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>


## 目次



目次	1
2月のトピックス5選	3
JA えひめ未来新居浜いちご部会で栽培環境モニタリング機器を導入	3
高校生を対象に就農啓発講座を開催	3
「気候変動・気象災害に負けない地域農業」を考える農業・生活研究フォーラムを開催	4
今が旬！媛小春の魅力アピール	4
耕畜連携による土づくりセミナーを開催	5
えひめ農業 NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
西条地区地域活性化勉強会を開催	6
第10回就農初期農業者研修会を開催	6
「地産地消・食育推進連携会議（第2回）」及び「地域農産物の紹介」を開催	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
四国中央農山漁村ふるさとづくり大会を4年振りに通常規模で開催	7
安定で高品質な多収栽培に向け、さといも・やまのいも栽培講習会を開催	8
花木の技術取得と産地拡大を目指し、生産者と新規就農者が視察研修を実施	8
■東予地方局 産地戦略推進室	9
就農初期農業者を対象に東予花木講習会を開催	9
メロン土壌分析結果による次期春作栽培の指導	9
■今治支局 地域農業育成室	9
今治産きゅうり、病虫害防除講習会開催	10
令和5年度波方女性農業大学閉校式を開催	10
「令和5年度農に風を起こす交流研修会」を開催	11
農業版ジョブコーチ育成研修会を開催	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	12
新規就農者の経営状況確認面談の実施	12
■今治支局 産地戦略推進室	12
地元の観光拠点で新商品の販売PR活動を展開	12
かんきつ園地の土壌分析で生産性の向上を	13
■中予地方局 地域農業育成室	13
いちご環境データの見える化により施設内の環境を改善	13
効率的な農福連携を目指し農業版ジョブコーチ育成研修会を開催	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
青年農業者が経営発展に向け先進事例を調査	14
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
雑穀（たかきび）を代替肉として開発したメニューの調理講習会を開催	15



久万高原農業を考える研究集会を開催	15
■中予地方局 産地戦略推進室	16
「さくらひめ」高校卒業式需要に向けて	16
■南予地方局 地域農業育成室	16
さといもの栽培技術講習会を実施	16
新規就農者の経営力向上を目指して経営発展講座を開催	17
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	17
くりのせん定作業受託で農地を守り、産地維持を図る！	17
初心者向けにパソコン農業簿記講習会を開催	18
最新機器で農作業安全を啓発！	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	18
「河内晩柑」の自根対策による安定生産を指導	19
南宇和高校農業科2年生を対象に研修会を開催	19
愛南町緑（泊山）地区ふるさと保全計画地元説明会へ参加	20
■八幡浜支局 地域農業育成室	20
将来のみかん農家を目指して出前授業を開催	20
AI 選果機見学会を開催	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	21
生産者らがラディッキオの食味を検討	21
減肥対策や儲かる農業について学ぶ	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	22
鳥獣被害の削減を目指し、青年農業者組織が技術交換会を開催	22
■八幡浜支局 産地戦略推進室	23
媛小春の美味しさ、イベントでPR	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	23
作物栽培技術の向上と関係機関の連携を強化	23

## 2月のトピックス5選



標 題	JA えひめ未来新居浜いちご部会で栽培環境モニタリング機器を導入		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年2月9日	場所	新居浜市神郷	
指導対象	いちご生産者（4人）	連携機関	JA えひめ未来、メーカー	
普及指導内容	<p>○ハウス内の温度や湿度、日射量等を「見える化」し、いつでもどこでもスマートフォンで確認することができる栽培環境モニタリング機器を導入する生産者に、機器の設置方法やモニタリングデータの活用方法についての講習会を実施した。</p> <p>○データを活用し、光合成に最適な環境に改善することで単収向上を目指す栽培管理の方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○それぞれのほ場のデータがリアルタイムでクラウド上に蓄積され、部会の生産者とJA、普及指導員がいつでも確認できる体制が構築された。</p> <p>○生産者自身がモニタリングデータを分析し、栽培管理の改善につなげていくためには専門知識が必要となることから、定期的な講習会を実施する予定。</p>			
 <p style="text-align: center;">設置方法を学ぶ生産者</p>		 <p style="text-align: center;">栽培環境モニタリング機器</p>		 <p style="text-align: center;">データの確認画面</p>

標 題	高校生を対象に就農啓発講座を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年2月5日	場所	県立今治南高等学校日高農場	
指導対象	県立今治南高等学校 園芸クリエイト科1・2年生（50人）	連携機関	えひめ農業未来カレッジ 農地・担い手対策室	
普及指導内容	<p>○農業への理解促進と就農への意識向上を目的に、高校生を対象に、「令和5年度就農啓発講座」を開催した。</p> <p>○先輩農業者である「えひめ愛顔の農林水産人」から、農業のやりがいや魅力、就農から現在に至るまで経験してきた楽しみや苦労話などを伝えた。</p> <p>○また、SNSを通じた農林水産業の魅力発信につなげるえひめ農林水産業魅力発信事業のほか、えひめ農業未来カレッジ（愛媛県立農業大学校）のカリキュラムや学校生活について情報提供した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは「就農のイメージがわいた」などの感想に加え、「今回の話を聞いて就農も選択肢として考えてみたい」と前向きな話があった。</p> <p>○先生からは「地域で活躍する農業者の話を聞くことで、進路の一つとして指導できる」等の評価が得られた。</p> <p>○当講座を、今後も継続的に開催し地域農業の魅力発信等により就農への意識を高め、担い手の確保・育成につなげていく。</p>			
 <p style="text-align: center;">就農に向けて質疑応答</p>				



標 題	「気候変動・気象災害に負けない地域農業」を考える農業・生活研究フォーラムを開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	
年月日	令和6年2月13日	場所	松前総合文化センター		
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、農業指導士、農高生等（84人）	連携機関	伊予地区農業・生活研究フォーラム 実行委員会、県衛生環境研究所		
普及指導内容	<p>○「気候変動・気象災害に負けない“強い伊予地区の農業”を目指して」をテーマにフォーラムを開催した。</p> <p>○基調講演では当指導班担当者から、キュウリ栽培を例に、植物は温暖化の中で光合成能力を上げてCO<sub>2</sub>を固定しようとしており収量を増やすことも可能との見解を示した。</p> <p>○また、県気候変動適応センターからは、愛媛県における気候変動の影響や農作業における暑さ指数調査結果等の情報提供が行われた。</p> <p>○その他、伊予農業高校生によるプロジェクト発表や、米の食味評価等を実施した。</p>				
結果と今後	<p>○今年度は梅雨期の豪雨後、夏秋期は極端な高温・少雨となるなど気候変動が大きかったこともあり、参加者は気候の変化に対応した農業について考える機会となった。</p> <p>○3品種で実施した米の食味評価は、「ひめの凜」「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」の順に高く、「ひめの凜」の食味の良さを改めて確認し、今後の作付け拡大の弾みとなった。</p>				
					<p>左：基調講演で猛暑・温暖化をチャンスにする農業を提案</p> <p>右：米の食味を評価する参加者</p>



標 題	今が旬！媛小春の魅力アピール		機関名	南予地方局産地戦略推進室	
年月日	令和6年2月3日、10日、18日	場所	松山市大街道 宇和島市きさいや広場		
指導対象	一般消費者	連携機関	道の駅みま、JA えひめ南		
普及指導内容	<p>○旬を迎えた「媛小春」の味の良さを体験してもらおうと、松山市と宇和島市で開催されたイベントでPR活動を行った。</p> <p>○当日は試食メインの販売を行うことで食味の良さや希少性をアピールするとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代から、味や印象についての様々な反応や感想を聞き取った。</p>				
結果と今後	<p>○「黄色い見た目からは想像できない味、全く酸味がなくとてもおいしい」、「愛媛のかんきつの種類の多さに驚いた」といった声も聞かれ、試食したほとんどの人が購入し、1時間余りで完売するなど、全ての世代に受け入れられる商品性の高さを確認した。</p> <p>○今後、ニーズが高まっている現状を生産者と共有し、価値を伝える販売手法等を協議していく。</p>				
					<p>左：宇和島市産業まつり</p> <p>右：えひめ愛ある食の市 (中予のほか県外からの旅行者へも紹介)</p>



標 題	耕畜連携による土づくりセミナーを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年2月20日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	西予認定農業者等（60人）	連携 機関	JAひがしうわ	
普及指導 内容	<p>○耕畜連携を進める取組みの一環として、畜産農家の堆肥舎やJA堆肥センターで生産される堆肥の有効利用を進めるため、土づくりセミナーを開催した。</p> <p>○「土壌から耕畜連携を考える」をテーマとした講演を行い、堆肥施用の必要性と注意点等を生産者に周知した。</p> <p>○また、パネルディスカッションでは、管内の堆肥利用の現状も踏まえたうえで、県やJA、生産者それぞれの立場から、堆肥の流通や施用、利用に関する課題や改善に向けた意見等が提起された。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、堆肥を利用する際の施肥設計に関する質問や、入手可能な堆肥について周辺地域にPRしてほしいなどの声が聞かれ、土づくりと耕畜連携の推進に向けた機運が高まった。</p> <p>○今後も、意向調査やマッチング活動を通じて、堆肥の有効利用に向け支援する。</p>			
				<p>左：「土壌から耕畜連携を考える」講演 右：パネルディスカッション</p>

## えひめ農業NOW


標 題	西条地区地域活性化勉強会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月13日	場所	西条市中央公民館	
指導対象	認定農業者等（36人）	連携機関	西条地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	<p>○地域農業の活性化を図るため、西条地区認定農業者等連絡協議会、西条地区青年農業者連絡協議会、西条・新居浜地区生活研究協議会の3組織合同による「地域農業活性化勉強会」の開催を支援した。</p> <p>○大洲市青年農業者の沖野順一氏を講師に迎え、「水稻におけるスマート農業の導入」をテーマに、直進アシストトラクターや水田水位センサーの導入、圃場管理システムの活用事例が紹介された。</p> <p>○（株）日本有機四国の小林榮充参与からは有機性廃棄物を利用した堆肥について、当室からはみどりの食料システム法の認証制度についての情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「スマート農業の導入により省力化・効率化が図られると学んだ」「次回も旬の話題や経営に関することをテーマに勉強会を開催してほしい」という声上がり、今後も農業者の意見を反映した研修会の開催を支援する。</p>			
				<p>左：講師 沖野順一氏 右：情報提供に聞き入る参加者</p>



標 題	第10回就農初期農業者研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月15日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（35人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）、新居浜市西条市、日本政策金融公庫、農政課	
普及指導内容	<p>○新規就農者等が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、基礎知識や基本技術の習得を図るため「就農初期農業者研修会」を開催した。</p> <p>○今年度最終回のこの日は、研修会受講生の“FRUIT WALK” 豊田果歩氏が「野菜の廃棄部分を使った商品開発」と題して、経営品目であるアスパラガスやブロッコリーのお茶作りの経緯や、今後の商品開発の展望などの事例発表を行い、県農政課6次産業化推進グループが「6次産業化等に取り組む事業者への支援」の説明を行った。</p> <p>○その他、豊田氏の「アスパラ茶」の試飲や、他の受講生の「干し芋」の試食、新居浜市から「産直市に求める消費者ニーズ調査の結果と分析」、西条市から「地域計画」についての情報提供を行い、研修終了後、情報交換会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「将来自身の農産物で6次化を考えるきっかけになった」「この研修会に参加することで、幅広く勉強することができ、またいろいろな人と出会うきっかけになった」との声が聞かれた。</p> <p>○当研修会は受講生の要望も聞きながら、関係機関と連携し、次年度も開催予定である。</p>			
				<p>左：受講生の事例発表 右：アスパラ茶の試飲と干し芋の試食</p>



標 題	「地産地消・食育推進連携会議（第2回）」及び「地域農産物の紹介」を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月1日	場所	東予地方局農業振興課	
指導対象	関係機関（29人）	連携機関	東予5市町教育関係課、学校給食関係課、農林水産関係課、各JA、（株）PENTA FARM	
普及指導内容	<p>○当室から、令和5年度デジタルを活用した地産地消・食育推進事業において開設を予定しているポータルサイトについて紹介し、優良事例として大洲市の取組を視察した結果を報告した。</p> <p>○出席の関係機関・団体等から、8月に開催した第1回からの新たな取組や課題、今後の予定等を報告し、意見交換を行った。</p> <p>○地産地消推進の一環として、地域農産物や加工品の紹介及び試食を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ポータルサイトについて、各市町より内容や運営方法について意見があり、事務局より応えられるよう検討することを伝えた。</p> <p>○また、出席者に対しポータルサイトの活用を呼びかけた。</p> <p>○視察事例報告では、大洲市学校給食センターと愛たい菜の地場産品納入の仕組みや、契約方式などについて質問があった。</p> <p>○意見交換では、関係機関がそれぞれの状況を共有し、学校給食で地場産品を活用するために、各機関で連携する場を作るよう働きかけた。</p> <p>○ポータルサイトや来年度事業に向け、各機関と打合せを進める。</p>			
				<p>左：参加者による意見交換</p> <p>右：地域農産物の紹介と試食</p>

標 題	四国中央農山漁村ふるさとづくり大会を4年振りに通常規模で開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年2月10日	場所	金生公民館（四国中央市金生町）	
指導対象	管内青年農業者、生活研究協議会員 認定農業者等（約140人）	連携機関	四国中央市、JA うま	
普及指導内容	<p>○四国中央農山漁村ふるさとづくり大会実行委員会が主催する「第49回四国中央農山漁村ふるさとづくり大会」及び「第19回四国中央市地産地消・食生活推進フォーラム」の開催を支援した。</p> <p>○当日は、認定農業者協議会が高品質な豚肉生産の取組、地域農業育成室がデジタルを活用した地産地消・食育推進の取組に関する事例発表を行った後、「弁当の日」提唱者の竹下和男氏が「弁当の日と学校給食」と題した基調講演を実施。</p> <p>○大会では、生活研究協議会員が腕を振るい、特産品をふんだんに用いた郷土料理の試食会と生産者がこだわりの農産物や加工品を対面販売する産直市も開催。</p>			
結果と今後	<p>○大会を通じ、生産者と消費者の交流と相互理解が深まるとともに、参加した教育関係者にも共有できたことで、更なる地産地消や食育の推進に努める機運が醸成された。</p> <p>○試食会では参加者が郷土料理に舌鼓を打つほか、大会後のアンケートでは特産品（里芋や山の芋）を使った料理実習に興味があるとの意見が多く寄せられた。</p> <p>○指導班は、参加者の意向等を踏まえ、今後の食生活推進活動等に繋げるとともに、組織活動や地産地消・食育活動の推進を積極的に支援する。</p>			
<p>【四国中央農山漁村ふるさとづくり大会実行委員会】 食の安全、地産地消推進等について消費者との相互理解を深めることを目的に認定農業者等連絡協議会、生活研究協議会、青年農業者連絡協議会、地産地消推進協議会の4団体及び関係団体で構成。</p>				
		認定農業者による事例発表		4年振りの試食会を好評に開催




標 題	安定で高品質な多収栽培に向け、さといも・やまのいも栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年2月13日～14日	場所	JA うま総合経済センター ほか (四国中央市中之庄町)	
指導対象	管内生産農家 (60人)	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○令和6年産さといも及びやまのいもの定植時期を控え、産地の維持・強化に向けた栽培講習会を市内3か所で開催した。</p> <p>○本年の重点対策として、さといもは「優良種芋確保、疫病の防除徹底、乾腐病等の防除」、やまのいもは「優良な種芋の選別とマルチ栽培」を掲げ、それぞれの要点について意見交換を行いながら、適期管理の指導徹底を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、安定生産に係る種芋確保や種子消毒方法、施肥、病害防除実証等に多くの質問が寄せられ、令和6年産への強い思いが感じられた。</p> <p>○当班は、さといもでは「①葉身・葉長の安定確保、②疫病初発生後定期防除、③畝間灌水の実施」、やまいもでは「①高品質栽培技術及びマルチ栽培の普及拡大、②新規栽培者の確保」を特に留意すべき事項として説明、指導した。</p> <p>○今後、JAとも連携の上、さといもは3集落で定期防除に取り組む栽培予定者、やまのいもは高品質栽培に取り組む栽培者や新規栽培予定者に個別巡回指導を継続する。</p>			
 <p>参加者と活発な意見交換</p>				

標 題	花木の技術取得と産地拡大を目指し、生産者と新規就農者が視察研修を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年2月28日	場所	農林水産研究所花き研究指導室、 東温市、新居浜市の園地	
指導対象	花木生産者、新規就農者 (10人)	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○「うまの花」として首都圏や京阪神の市場で評価を得ているピットスポラム等の花木に関し、生産技術のレベルアップと産地の拡大を目的とした花木研修会を開催。</p> <p>○農林水産研究所花き研究指導室では、枝物の魅力や栽培条件、経営の見通しや有望な新規品目について知識の習得を図った。</p> <p>○東温市ではユーカリ産地の先進的な取組状況、新居浜市では東予地方局作成の花木栽培マニュアルに基づくピットスポラムの栽培状況について、それぞれ園地の実態を含めた視察を行い、生産者は当地域との作業効率や樹形の違い等を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○ベテラン生産者と新規就農者が花木生産をはじめ、農業に関する様々な意見交換を行い、園地見学の予約をするなど、当地域の花木産地を盛り上げる機運醸成ができた。</p> <p>○生産者からの提案で、再度このメンバーで新品目の導入や「うまの花」の品質向上について検討することとなり、指導班は引き続き、花き産地の振興を支援する。</p>			
  <p>左：花き研究指導室で花木の魅力を学ぶ 右：新居浜市のピットスポラム生産者から栽培方法を学ぶ</p>				


標 題	就農初期農業者を対象に東予花木講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年2月15日	場所	西条市丹原	
指導対象	就農初期農業者（23人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○就農初期農業者を対象にした東予の花木について紹介を兼ねた講習会を行った。</p> <p>○花木の新規就農者を増やすことを目的に、①花木とは ②東予地域の花木について ③栽培の基本について ④新規有望品目について の内容で講習会を開催した。</p> <p>○特に③について、栽培に適した農地の説明に加え、作業時間や経営収支についても説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者にアンケートを実施したが、「経営品目に入れたい」「個別指導をお願いしたい」などの回答があった。</p> <p>○具体的な栽培等についての相談があれば、個別に丁寧な指導を行い、新規就農者の確保と産地拡大に努める。</p>			
				<p>左 花木栽培について熱心に聞く参加者</p> <p>右 花木を見ながら個別に説明</p>

標 題	メロン土壌分析結果による次期春作栽培の指導		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年2月14日	場所	JA えひめ未来	
指導対象	メロン生産者（7人）	連携機関	JA えひめ未来、（公財）園芸植物育種研究所	
普及指導内容	<p>○JA えひめ未来と連携し、メロン生産者7人に対し、当室が分析した土壌診断結果に基づき、春作の施肥設計を指導した。</p> <p>○診断結果では、連作や前作作物の栽培により EC が高いことや、カルシウム、マグネシウム、カリウム等の塩基が多く残留していることから、ほ場準備前の湛水などによる除塩や、元肥を減肥する目安などを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○出席した生産者からは、堆肥の投入量など土づくりに対する質問が多く出された。</p> <p>○次年度の春作メロンは3月上中旬から定植が開始されるため、JA と連携して高単収を目指した栽培指導を行う予定。</p>			

標 題	今治産きゅうり、病害虫防除講習会開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年2月13日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部会議室	
指導対象	JA おちいまばりきゅうり部会 (92人)	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○抑制きゅうりを中心に退緑黄化病が平年に比べ多くのほ場で確認されたため、病害虫防除講習会を開催した。</p> <p>○当室は、媒介するタバココナジラミの防除の徹底を呼びかけたほか、今治版防除指針（早見表）を作成して病害虫の防除ポイントについて指導した。</p> <p>○多くの生産者から「初期防除の重要性が分かった」との意見があり、病害虫対策の関心の高さがうかがえた。</p>			
結果と今後	<p>○R6年度に退緑黄化病対策として、新たな耐病性品種の実証や薬剤感受性検定を実施予定。</p> <p>○また、面積拡大に向けて新たな生産者を確保するため、新規栽培希望者説明会を開催する。</p>			
			講習会の様子	



標 題	令和5年度波方女性農業大学閉校式を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年2月20日	場所	今治市波方支所	
指導対象	農業に関心のある一般女性 (25人)	連携機関	今治市	
普及指導内容	<p>○令和5年度（第31期）波方女性農業大学の閉校式が開催され、当室から春播野菜の栽培ポイントや土づくりについて講習した。</p> <p>○受講生代表から今年度の受講を振り返り農業への意気込みが語られ、受講生らが農業の喜びや大変さを共有するとともに、「小さな面積から農業を始めてみたい」と意欲的な意見もあった。</p> <p>○当室の職員が講師となり、これまで5月から2月まで9回の講座を開き、野菜の基本的な栽培や草刈機の安全な使用のほか、イチゴの先進地視察や地元の大豆を使った味噌づくりなどに取り組んできた。</p>			
結果と今後	<p>○受講後に直売所に出荷を始めた方もおり、担い手が減少するなか多様な人材育成のため次年度も開催する。</p>			
				
	閉校式で野菜栽培講座(2/20)	草刈機の安全講習(2/6)	現地で野菜栽培講座(10/13)	




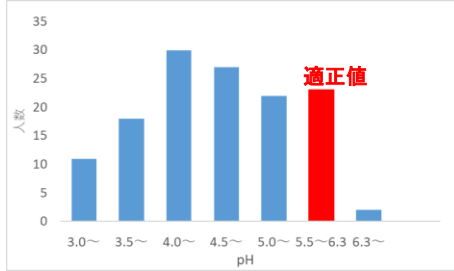
標 題	「令和5年度農に風を起こす交流研修会」を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年2月8日	場所	今治市民会館	
指導対象	今治・上島地区農業者（95人）	連携機関	今治地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	<p>○今治・上島地区の農業者が集い、地域に新しい風をおこし、生産意欲の向上、地域農業の活性化を目指すことを目的とした「令和5年度農に風をおこす交流研修会」を開催した。</p> <p>○研修会は、「若い力・女性の力で盛り上げよう 今治・上島農業！」をテーマに（株）ニューズ土居社長の講演や地域で活躍している農業女子2人の事例発表、今治南高校園芸クリエイト科生徒のプロジェクト発表を行った。</p>			
結果と今後	<p>○「いかに規格外品を活用し売り物にしていくかが大事だと考えていたので、共感する部分が多くあった」「新規就農を目指し研修中なので、身近に成功している先輩女性がいることに心強く感じる」と、今後の農業経営の糧となる研修会となった。</p> <p>○当室では、今後も女性活躍や次代を担う農業者の育成に努める。</p>			
		 <p>4年ぶりに満杯となった会場</p>		



標 題	農業版ジョブコーチ育成研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年2月19日	場所	今治市乃万	
指導対象	就労支援施設の支援員等（7人）	連携機関	（株）ヤンマーアグリジャパン	
普及指導内容	<p>○農福連携を行っている就労支援施設の支援員を対象に、農業機械に関する知識の向上や農作業安全の啓発を目的に農業版ジョブコーチ育成研修会を開催した。</p> <p>○当室より農作業事故の現状と対策について指導を行った後、（株）ヤンマーアグリジャパンから刈払機と管理機の安全使用と日常点検について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「機械を長期間使用しない場合の燃料の抜き取りや保管はどうすればよいか」「小石等の飛散を防止するにはどうすればよいか」などの質問が上がり、農業機械の安全使用について理解を深めた。</p> <p>○就労支援施設の支援員は、農業技術等について学ぶ機会が少ないことから、今後も農業版ジョブコーチ研修会の拡充を行い、農福連携の推進を図る。</p>			
		  <p>左：農作業事故の現状と対策について 右：管理機の安全使用と日常点検について</p>		



標 題	新規就農者の経営状況確認面談の実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年2月9日	場所	上島町役場岩城総合支所・現地圃場	
指導対象	上島町新規就農者（4人）	連携機関	上島町、農業委員会、NPO 法人岩城農村塾、JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○上島町農業人材投資事業サポートチームでは、経営開始資金等の受給者を対象に、個別面談による経営状況の確認等を実施した。</p> <p>○面談では、直近の決算書、帳簿、作業日誌等の書類を確認し青年等就農計画の進捗状況や課題の聞き取りを行うとともに、栽培園地の管理状況の現地確認等を通じて経営改善に向けた指導助言を行った。</p>			
結果と今後	<p>○上島町での対象者はIターン3人、Uターン1人、作目別ではかんきつ栽培3人、野菜栽培が1人で、粗収益はいずれも前年を大きく上回っているが、施設整備や流通販売等の経費が大きく、所得はまだ少なく給付金の占める割合が高い。</p> <p>○当班では、関係機関と連携し、給付金終了後の自立経営が安定するように施設整備に対する補助事業活用や収益性の高い品種への更新、かんきつの未収穫期間の収入を補完する換金作物の導入など、手厚い指導により地域の担い手として育成する。</p>			
			<p>左 サポートチームによる個別の経営ヒアリング</p> <p>右 経営圃場の管理状況確認</p>	



標 題	地元の観光拠点で新商品の販売 PR 活動を展開		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年2月11、17、23、24日	場所	タオル美術館、今治港は一ばりー来島海峡サービスエリア	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ（31人）	連携機関	タオル美術館	
普及指導内容	<p>○しまなみ地域の農産加工品を県内外の観光客に PR するため、常設コーナーを設置している「タオル美術館」及び「せとうちみなとマルシェ」の特設ブースにおいて、ワインやオリーブ、レモンの新商品等の試食会を生産者と開催した。</p> <p>○また、「来島海峡サービスエリア」を生産者と訪問し、生産者グループの商品情報等を提供し取引条件等を担当者と協議した。</p>			
結果と今後	<p>○試食会では、多くの観光客に地元の事業者が作る商品や農業を PR、販売することができるとともに、「来島海峡サービスエリア」では、レモンの加工品等の販売が3月から始まることとなった。</p> <p>○当室では、引き続き地元農産加工事業者の商品開発や販売活動等を支援する。</p>			
				
	タオル美術館コーナーでの試食販売	せとうちみなとマルシェでの試食販売	地元サービスエリアでの出展協議	




標 題	かんきつ園地の土壌分析で生産性の向上を		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月27日	場所	JA えひめ中央新規就農研修センター	
指導対象	かんきつ生産者等（100人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○肥料価格高騰対策と土づくりの推進を図るため、かんきつ園地土壌 205 点（施設含む）の土壌分析（pH・EC）を行った。</p> <p>○特に今年は、少雨により低下した樹勢を回復させるため、土づくりが重要な作業となっている。</p> <p>○分析結果とそれに基づく土壌 pH の矯正に必要な苦土石灰の施用量や施肥量の見直し基準は、個別カルテに整理し農家に送付した。</p> <p>○なお、分析には同 JA 就農研修生も参加し、作業を通して土壌診断の重要性や分析手法、改善策等について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○土壌 pH が適正值（5.5～6.3）の範囲にあったのは全体の 17% であり、酸性が強い傾向であった。</p> <p>○今後、分析データを基にした土壌改良や適正施肥の指導を行うとともに、樹勢回復を図るための堆肥の投入や液肥散布を徹底し、コスト低減と生産性の向上に努める。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">  <p style="margin-top: 10px;">左：JA 研修生に分析手法を指導</p> <p style="margin-top: 10px;">右：土壌 pH 分析結果 (5.5～6.3 が適正值)</p> </div> </div>				



標 題	いちご環境データの見える化により施設内の環境を改善		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月26日	場所	東温市牛渕（会員ハウス）	
指導対象	だんだんの会会員（5人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○いちごの若手生産者を対象に、栽培技術の習得と向上を目指した今年度4回目の研修会を開催した。</p> <p>○当室より、いちごの生育状況と環境モニタリングデータを踏まえた栽培管理について指導した後、会員相互の情報交換を実施した。</p> <p>○環境モニタリングデータでは、当該ハウスにおける夜間の CO<sub>2</sub> 濃度が通常 400～600ppm を著しく超えていることから、会員らで CO<sub>2</sub> 発生装置や暖房機の点検及び CO<sub>2</sub> 記録計等に異常がないか確認した。</p>			
結果と今後	<p>○夜間の CO<sub>2</sub> 濃度が高い理由は、暖房機の煙突接合部のズレが原因であることが判明し、修繕後に正常値を確認した。</p> <p>○研修会を通し会員の中には、収量アップのため、環境データを参考に栽培管理を見直す者も出てくるなど、技術面でのスキルアップや生産意欲の向上が伺えた。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：データを踏まえた技術指導</p> <p>右：煙突中央部のズレを確認した暖房機（中央部）</p> </div> </div>				





標 題	効率的な農福連携を目指し農業版ジョブコーチ育成研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月6日	場所	県武道館及びヤンマーアグリジャパン(株)松山支店	
指導対象	福祉事業所支援員等(8人)	連携機関	JA(松山市、えひめ中央)、松山市、伊予市、久万高原町、松前町、ヤンマーアグリジャパン株式会社	
普及指導内容	<p>○農福連携による労働力確保の取組拡大に向け、福祉事業所支援員等の農業技術の習得を目的とした研修会を開催した。</p> <p>○当室より、管内の農福連携事例やJAを窓口とした農作業受委託システムについて説明し、いちご、さといも等の管理作業で農福連携に取り組む(株)まさきばたけより、経験を踏まえたメリットや留意点等について報告を受け、意見交換を行った。</p> <p>○さらに、当室とヤンマーアグリジャパン(株)より、安全で効率的な農作業を行うため、農業機械の操作やメンテナンス方法の講習と電動刈払機による除草時の各種防護具の紹介等を行った。</p>			
結果と今後	<p>○福祉事業所支援員の農業機械に関するスキルや安全意識が高まった。</p> <p>○意見交換により、福祉事業所間の情報共有や農業者との相互理解が図られ、取組拡大が期待された。</p> <p>○今後も農家からの多様な作業依頼に福祉事業所が対応し得るよう、研修会の開催等を通じて支援員に対する技術の習得と向上を促す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>参加者による意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>電動刈払機と防護具の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自動操舵トラクターの試乗体験</p> </div> </div>				


標 題	青年農業者が経営発展に向け先進事例を調査		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年2月5～6日	場所	中田食品(株)、大阪市中央卸売市場	
指導対象	伊予地区青年農業者連絡協議会員(8人)	連携機関	県大阪事務所	
普及指導内容	<p>○会員の経営・販売能力の向上を目的に、和歌山県の梅加工業者及び大阪市中央卸売市場での事例調査及び意見交換を実施した。</p> <p>○和歌山の中田食品(株)では、梅干加工の作業工程の説明に対し、七折小梅の加工に取り組んでいる会員から、容器の包装や梅農家の担い手の確保等について熱心な質問があった。</p> <p>○大阪市中央卸売市場では、売場やセリを見学した後、大果大阪青果(株)担当者とかんきつの流通・販売動向について意見交換。</p> <p>○消費者目線での味と外観や他県と比較した愛媛県産の評価等について質問し、互いに理解を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○参加した会員からは先進事例を学び、「七折小梅の加工に活かしたい」「美味しさにこだわって栽培している産地の情報を広く知ってもらいたい」等の意見が出された。</p> <p>○今後も儲かる農業の実践を目指し、青年農業者の組織活動を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>左：梅加工製造の流れを学ぶ 右：青果会社との意見交換</p> </div> </div>				

標 題	雑穀（たかきび）を代替肉として開発したメニューの調理講習会を開催		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年2月19、22、26、27日	場所	久万高原町内の飲食店・民宿	
指導対象	飲食店・民宿の料理長、スタッフ (10人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」の一環として、雑穀（たかきび）を代替肉として利用する料理を、町内の飲食店・民宿でメニュー化し広く消費者に提供するため、飲食店・民宿を対象にした調理講習会を実施した。</p> <p>○講習では、雑穀料理研究家が講師となり、前年度開発した3品の料理レシピに基づき、クーマカレー、久万高原ボール、久万風ポロネーゼの調理方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○町内の宿泊施設では、近年、遍路による外国人利用者も多く、ヴィーガン(完全菜食主義者)向けの食事提供に苦慮するケースもあり、今回の取組は、これらの課題解決にも繋がるものと期待している。</p> <p>○当指導班では、メニュー化の実現と需要の拡大を支援するとともに、生産者の確保と生産量の拡大を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>飲食施設での講習会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調理したクーマカレー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>原材料の雑穀(たかきび)</p> </div> </div>				

標 題	久万高原農業を考える研究集会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年2月1日	場所	久万高原町役場	
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、農業指導士、農高生等 (123名)	連携 機関	久万高原地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導 内容	<p>○高齢化による担い手不足や荒廃農地の増加、鳥獣被害の深刻化等、地域が抱える様々な課題を踏まえ、農業者及び関係者が地域農業の振興策を共に考える研究集会を開催した。</p> <p>○当指導班からは農作業の事故事例について紹介し、農作業事故の未然防止と農業機械の安全使用の徹底を呼びかけた。</p> <p>○その他、えひめ農業経営サポートセンターのコンサルタントを講師に、「鳥獣被害の防止対策」をテーマとした講演や、上浮穴高校生による雑穀等の伝統食材をテーマとしたプロジェクト活動の発表を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○多発する鳥獣被害の防止対策について検討・協議できた他、若いアイデアで地元を盛り上げるフレッシュな高校生の発表で、町内産雑穀の魅力が発信できた。</p> <p>○次年度は、アンケートで希望の多かったテーマ(耕作放棄地対策等)に関して計画し、地域農業の発展を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>左：多くの農業者が出席し、地域農業の振興策を考える</p> <p>右：鳥獣害対策の講演</p> </div> </div>				



標 題	「さくらひめ」高校卒業式需要に向けて		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年2月22日	場所	中予地方局、松山市生産者ハウス	
指導対象	さくらひめ生産者（4人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、花き市場、県農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」に係る第2回検討会及び現地研修会を開催した。</p> <p>○（株）大田花き等からの市場情勢報告の後、当室から種苗コスト低減と高校卒業式需要に向けて取り組んだ夏季自家育苗技術の実証結果等を報告し、意見交換を行った。</p> <p>○現地研修会では、実証を行っている生産者のハウスで栽培状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○冷蔵設備を利用した夏季自家育苗により、2月から出荷が始まり、種苗コスト低減と高校卒業式用の注文対応ができた。</p> <p>○また、9月中旬、10月上旬、11月上旬定植に実証区である10月下旬定植を組み合わせることで、継続的な出荷に繋がった。</p> <p>○生産者からは「種苗代の低減に繋がるため、来年度も取り組みを続けたい」「継続出荷により市場や顧客が確保でき、その重要性を実感した」等、次作に向けての意欲的な意見が聞かれた。</p> <p>○次年度も、引き続き夏季自家育苗技術実証と認知度向上に取り組む。</p>			
				<p>左：東京、大阪市場からの情勢報告</p> <p>右：現地研修会で栽培実証状況を確認</p>

標 題	さといもの栽培技術講習会を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月7日、9日	場所	JA えひめ南 営農センター	
指導対象	さといも農家（22戸）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○南予管内のさといもは平均単収が低いことから、関係機関と協議し、増収が期待できる畝幅に変更することとし、栽培指針を見直した上で、適期植え付けやかん水の重要性等と合わせて指導した。</p> <p>○また、若手プロジェクトで実証したかん水量による収量の違いや、株間の変更や土入れ回数による増収対策の結果を広く周知した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、栽培に関する技術的な質問に加えて、「えひめ南一丸となってさといも栽培を盛り上げていきたい」との前向きな意見が出るなど、積極的な意見交換が行われた。</p> <p>○適期定植に向けたほ場準備の徹底や個別巡回指導により、単収の向上を目指す。</p>			
		<p>適期作業の重要性等について指導</p>		

標 題	新規就農者の経営力向上を目指して経営発展講座を開催	機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年2月26日	場所	南予地方局6階営農相談室
指導対象	就農6年目以下の新規就農者 青年農業者連絡協議会（10人）	連携機関	えひめ農林漁業振興機構
普及指導内容	○就農6年目以下の農業者の経営発展を後押しするため講座を開催した。 ○農業経営総合支援事業を活用して、販路拡大の専門家を招き、ネット販売の方法や商品開発の実践例を聞くなどノウハウを学んだ。また、講義後に個別相談も実施した。		
結果と今後	○研修後のアンケートでは約9割の受講者が「実践可能な具体例が聞け、充実した内容であった」と回答した。 ○2名がパッケージやECサイトの改良などに動き出したほか、「販路拡大による経営改善に取り組みたい」との意欲的な意見が聞かれた。 ○講義の中でグループワークもあり、若手農業者同士の意見交換や交流も図られた。		






左：ネット販売や商品開発のノウハウを学ぶ  
右：若手就農者同士のグループワーク

標 題	くりのせん定作業受託で農地を守り、産地維持を図る！	機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年1月29日～2月6日	場所	北宇和郡鬼北町および松野町
指導対象	JA えひめ南鬼北くり同志会員 （10人）	連携機関	JA えひめ南
普及指導内容	○当地域では、生産者の高齢化や担い手不足により栽培管理が難しくなっているくり園地について、「くり剪定請負班」によるせん定作業支援を実施しており、今年度の実績は2.2haであった。 ○当班は作業班員に対して、樹高が高くなった樹のカットバックや密植園の間伐方法など、管理しやすい園地にするせん定方法を指導した。		
結果と今後	○作業を委託した生産者からは「作業しやすくなったので、栽培意欲が湧いた」などの声が聞かれた。 ○引き続き、くり樹の低樹高化および適切な栽植間隔の確保等、管理のしやすい園地づくりを指導し、産地の維持および鬼北産のくりを使用した商品を製造している（株）源吉兆庵への安定供給を図る。		





左：カットバックで低樹高に仕立てる  
右：低樹高にせん定された園地

標 題	初心者向けにパソコン農業簿記講習会を開催	機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年2月14日	場所	鬼北農業指導班
指導対象	新規就農者等（7名）	連携機関	鬼北町、松野町 ソリマチ株式会社 中四国ブロック
普及指導内容	<p>○農業簿記記帳の実践に意欲的な農業者を対象に農業簿記講習会を開催した。</p> <p>○初心者が理解しやすいよう、「簿記を記帳する理由」「白色申告と青色申告の違い」等簿記記帳の基本知識について、具体例を示しながら分かりやすく説明した。</p> <p>○この後、ソリマチ（株）の講師が実際にパソコンを操作する演習を行い、当班は受講者が円滑に操作できるようサポートした。</p>		
結果と今後	<p>○受講者からは「その場で疑問点を質問でき、理解を深めながら簿記の基礎を習得することができた」「今後、経営改善に生かしたい」などの声が聞かれた。</p> <p>○当班では、引き続き農業経営改善に意欲的な農業者をサポートしていく。</p>		
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>後で行うソリマチ農業簿記ソフトを活用した演習の理解促進のため、簿記の基本について、指導班より説明</p> </div> </div>			

標 題	最新機器で農作業安全を啓発！	機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年2月20日	場所	松野町
指導対象	松野町農作業受託協議会員（12人）	連携機関	JA 共済愛媛県本部、(株)松野町農林公社
普及指導内容	<p>○松野町農作業受託協議会の会員を対象に農作業安全についての研修会を実施した。</p> <p>○JA 共済が農作業安全啓発事業で取り組んでいるVRゴーグルを用いた農作業事故の体験動画の視聴を行い、事故の発生要因の分析や安全対策を確認した。</p> <p>○また、屋外において、電動農業機械の紹介と実演を行い、電動の特徴や使用のメリットを説明した。</p>		
結果と今後	<p>○研修会に参加した生産者からは、「リアルな映像で農作業事故の恐ろしさを再確認できた」「電動農業機械は軽くて取り回しが楽で、十分な作業能力があることがわかった」との声が聞かれた。</p> <p>○引き続き、農作業事故の軽減に向け、農作業安全の啓発を行っていく。</p>		
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：VRゴーグルによる農作業事故体験動画の視聴 右：電動農業機械の実演</p> </div> </div>			







標 題	「河内晩柑」の自根対策による安定生産を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年2月20、26、28日	場所	愛南町緑、御荘菊川、御荘和口、城辺	
指導対象	JA えひめ南味楽共選南宇和支部 生産者（21人）	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○自根発生により強勢となって開花や着果が減少した「河内晩柑」の成木について、樹勢抑制のための主幹傷入れ処理の適期となる発芽期を前に、自根対策現地講習会を開催した。</p> <p>○生産者の「河内晩柑」ほ場で傷入れ処理した自根発生樹が着果量を回復している様子を確認するとともに、自根の発生程度が高いほど着果量が減少することと、対策を行うことで着果量の向上につながることを報告した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「自分の園で実施すると今まで着果しなかったのに十分に着果した」「チェーンソーによる傷入れ時期はいつまで可能か」等の意見や質問があり、本技術への関心の高さが伺えた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、生産安定策を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">自根対策について講習      一昨年入れたチェーンソー傷      結実良好となった樹</p>				

標 題	南宇和高校農業科2年生を対象に研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年2月14日	場所	みかん研究所	
指導対象	南宇和高校農業科2年生（15人）	連携 機関	愛南町、えひめ農業未来カレッジ、 みかん研究所	
普及指導 内容	<p>○愛南町と連携し、新規就農候補者研修を実施した。</p> <p>○初めての取組みとして、農大生によるかんきつの輸出プロジェクトの報告、農大の新しいカリキュラムや実際の学びの様子など農大の魅力を伝えてもらった。</p> <p>○さらに高校生からは「河内晩柑」等 GLOBAL G. A. P. 維持の取組報告を、県からはかんきつ輸出に係る輸出検疫制度の説明やかんきつ長期貯蔵技術を紹介した。</p> <p>○また、今が旬の「媛小春」や「甘平」の試食を農大同窓会南宇和支部の協力を得て行った。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは「高校で取り組んでいる GLOBAL G. A. P. の取組みの背景などが理解できてよかった」との感想が聞けた。</p> <p>○参加者の中には就農を目指している生徒がおり、引き続き関係機関と協力しながら地元農業の魅力発信を行い、将来のUターンや就農につなげていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">左：農大生の発表 右：かんきつの試食</p>				







標 題	愛南町緑（泊山）地区ふるさと保全計画地元説明会へ参加		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年2月29日	場所	緑基幹集落センター	
指導対象	緑（泊山）地区農地地権者7人	連携機関	愛南町、農村整備課、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○南予地方局農村整備課が策定を進めている当計画について、当班は将来の営農計画のベースとなる土壌断面調査や営農類型作成の協力を行ってきた。</p> <p>○土壌断面調査では、中央部から西部にかけて作土下に硬く透水性が劣る土層が確認され、野菜や果樹の栽培には排水性向上対策が必要であることを報告。</p> <p>○当日は基盤整備の事業構想が示された後、作物ゾーニング別の営農計画が説明され、当班からはかんきつ（河内晩柑＋紅まどんな）の収益性が高く、続いて野菜（ブロッコリー）が続くという説明を補強した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「かんきつが良いことは判ったが、収穫までの未収益期間の問題が残る」「収益性を高めるためにもっとブロッコリーの作付けを増やしてはどうか」といった意見が出されるなど、計画を自らのものと捉える真剣さが伝わってきた。</p> <p>○今後も地域に寄り添った計画となるよう支援を継続する。</p>			
				<p>左：土壌断面調査 右：地元説明会</p>

標 題	将来のみかん農家を目指して出前授業を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年2月6日	場所	八幡浜市立真穴小学校	
指導対象	八西地区青年農業者連絡協議会員（3人）	連携機関	八幡浜市、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○農業の魅力を理解してもらうために首都圏及び松山市の小学生を対象に実施していた出前授業を、地元の小学生にも拡大して実施することとなり、活動を支援した。</p> <p>○生産者自らが撮影したかんきつ栽培のDVD上映や、かんきつの食べ比べ、質問コーナーなど、小学生にも理解しやすい授業内容となるよう指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○小学生からは「どのようにして農家になったのか」「どのように知識を習得したか」等の質問があり、かんきつ農業への関心を深めてもらった。</p> <p>○地元の小学生にも出前授業を行うことで、地域の魅力や特産品についての理解促進や青年農業者の生産意欲の向上にもつながったことから、次年度も実施していく。</p>			
				<p>左：小学生に果実の配布 右：道具を紹介する青年農業者</p>



標 題	AI 選果機見学会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室	
年月日	令和6年2月14日	場所	農家倉庫(伊方町川永田)		
指導対象	かんきつ生産者等(20人)	連携機関	(株)NP システム開発		
普及指導内容	<p>○当室ほか関係機関で組織する西宇和スマート農業推進協議会は、選果場への出荷にあたり農家の大きな負担となっている庭先選別の省力化等を図るため、ベンダー企業と連携してAI選果機を開発し、普及に努めている。</p> <p>○選果の様子を見学したいとの希望が多数寄せられることから、導入した農家の協力を得て見学会を開催した。</p> <p>○併せて、当室が制作する新規就農者向けの映像集「シトラス講座」で会の様子を放映するべく、業務を委託した八西CATVが収録を行った。</p>				
結果と今後	<p>○新たに1社の農業法人が導入することとなり、管内での導入実績は3台となる。</p> <p>○選果の人員を収穫に振り向けられることから農家の導入意欲は高まっており、補助事業や制度資金の活用等を指導していく。</p> <p>○収録した映像は2月19日に八西CATVで放映された。今後、愛媛県庁ホームページで公開を予定している。</p>				
<p>【AI選果機】 人工知能(AI)技術で外観を評価し、病害虫の被害果等を選別する機能を有する選果機。</p>				<p>ベンダー企業担当者による説明</p>	<p>甘平の選果を実演</p>

標 題	生産者らがラディッキオの食味を検討		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年2月16日	場所	JA 愛媛たいき営農センター	
指導対象	ラディッキオ生産者、青年農業者(5人)	連携機関	大洲市、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○大洲産の西洋野菜ラディッキオの食味について、他産地産や外国産のものと比較するため、試食会を実施した。</p> <p>○当班が今年度実証した品種比較結果や肥培管理が及ぼす影響も推測しながら、着色や結球度合い等の外観も含めた食味の違いについて、生産者とともに確認した。</p>			
結果と今後	<p>○特徴である苦みについては、他産地産と比較しても明確な差はなかった。また、苦味が弱いものは食べやすい反面、味に特徴がないといった意見も出た。</p> <p>○当班は、引き続き高品質安定生産に向けた栽培体系を確立していくとともに、今後は試験研究機関と連携して成分分析を行い、機能性など新たな切り口での販売も視野に入れた取組みを検討する。</p>			
		<p>左：各種の味などを意見交換 右：試食した品種</p>		

標 題	減肥対策や儲かる農業について学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年2月22日	場所	大洲市「にし川」	
指導対象	認定農業者、青年農業者、新規就農者、関係機関等（56人）	連携機関	大洲市、内子町、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○組織間交流や新規就農者等への最新知識の習得などを目的に、大洲喜多地区認定農業者協議会・青年農業者連絡協議会が合同研修会を開催した。</p> <p>○青年組織や大洲農業高校生のプロジェクト発表、有機質資材を活用した減肥対策等の講演会、局予算事業における栽培体系技術実証報告など、今後の農業経営の参考となる内容を当班が厳選してコーディネートした。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、高校生や青年農業者ら若い力が積極的に地域貢献に取り組んでいる現状や儲かる農業への期待などの発言があったほか、土壌分析により自身の農地の状態を正確に把握することが必要などの意見が出された。</p> <p>○今回の研修会で土壌分析の実施を希望する多くの声があったことから、簡易分析は当班で、それ以外の項目分析は地元 NPO 法人が対応していること、分析結果に基づく施肥指導は当班で実施していることを紹介した。</p>			
				<p>左：減肥対策の講演会 右：「儲かる農業」栽培技術実証の報告</p>

標 題	鳥獣被害の削減を目指し、青年農業者組織が技術交換会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年2月14日	場所	西予市林業センター、 野村町現地捕獲檻	
指導対象	青年農業者(20人)	連携機関	西予市、東予地方局、南予地方局	
普及指導内容	<p>○鳥獣被害軽減のため、当班が活動を支援している西予青年農業者連絡協議会が他地区の青年農業者組織に呼びかけ、捕獲や防除に係る合同技術交換会を開催した。</p> <p>○交換会では、県施策の説明や地区別取組事例の紹介を行った後、捕獲や防除の効果的な実施に係る意見交換を実施した。</p> <p>○また、野村町内に設置している捕獲檻で、くくり罠の設置や電気止め刺しの使用について研修した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「狩猟免許を取得したが、くくり罠の設置や止め刺しについて実際に学ぶ機会がなく、貴重な経験となった」「他地区が個体の処理をどのようにしているか知ることができた」などの声が聞かれ、捕獲や防除技術の向上につながった。</p> <p>○今後も、青年農業者組織による鳥獣害対策への取組を支援するとともに、今回実施したアンケート調査結果を基に、より地域が必要とする技術の普及について検討する。</p>			
				<p>左：地区別にとり組み事例を紹介 右：鳥獣害対策技術の現地研修</p>



標 題	媛小春の美味しさ、イベントで PR		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年2月18日	場所	八幡浜みなと みなと交流館	
指導対象	一般消費者	連携機関		
普及指導内容	<p>○県内消費者への認知度向上を目的に、八幡浜管内のイベントに合わせ「媛小春」の試食販売を実施した。</p> <p>○当室は、果実の展示や試食販売に加え、果実の特性や8月に設立した「南予の媛小春」魅力アップ協議会についてPRした。</p> <p>○また、認知度を把握して今後の販売活動につなげるため、試食者にアンケート調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は天候に恵まれ、家族連れの来場者も多く、子どもから高齢者まで幅広い年齢層に媛小春をPRできた。</p> <p>○果皮の黄色から酸っぱいイメージを持っていたのか、試食者は口に入れた瞬間、驚いたような表情で「美味しい!」「甘い」と感想を述べていた。</p> <p>○アンケートには「見た目では甘さと美味しさが伝わってこないの、味のアピールに工夫が必要」との意見があり、今後は伝わりやすいキャッチコピーや甘さのPR方法等を検討する。</p>			
				<p>左：媛小春や協議会等を紹介</p> <p>右：試食者にはアンケートを実施</p>

標 題	作物栽培技術の向上と関係機関の連携を強化		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年2月16日	場所	道後プリンスホテル	
指導対象	県普及指導員等 (69名)	連携機関	JA 全農えひめ、各 JA、農林水産研究所、農産園芸課米麦係	
普及指導内容	<p>○令和5年産水稻等の生育状況や各普及拠点の実証成果を共有するとともに、次年の高品質安定生産について協議するため、「第3回作物調査研究会」を開催した。</p> <p>○各普及拠点から「ひめの凜」の現地実証成果について、JA 全農えひめ等から作物情勢や「にじのきらめき」の取組み等について、農林水産研究所から大豆の新品種・系統等について説明された。</p> <p>○また、「愛媛県での主食米の多収へのアプローチ」と題し、農林水産研究所から、多収水稻の理想の草姿等について講演があった。</p> <p>○当グループからは、県内3か所で実施した「ひめの凜」の実証成果について報告し、有機質資材等を活用した食味向上と収量確保の両立に向けた栽培技術を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○実証試験を通して、各地域の課題解決に向けた栽培技術を検討でき、本研究会で成果を共有することで、次年産「ひめの凜」の高品質安定生産に向けた意識統一を図った。</p> <p>○麦や大豆を含めた作物栽培に係る技術向上を図るとともに、各関係機関同士や若手職員とベテラン職員との交流の場を設けることで、組織内外の連携力を強化できた。</p> <p>○今後も定期的に研究会を開催し、作物栽培技術向上と関係機関の連携促進を図る。</p>			
				<p>左：作物情勢を報告</p> <p>中：大豆の品種を紹介</p> <p>右：各普及拠点担当者と次年度の方針を協議</p>



■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543